

書店向け小型マルチ決済端末発売

クレカ、QRなどに対応

光和コンピューターはこのほど、書店向けにオールインワン決済端末「PAYGATE Station」の提供を開始した。持ち運びできる端末で、クレジットカードやQR決済、交通カードなど複数の決済に対応できる。小売現場で進むキャッシュレス化の流れに対応する。

光和コンピューター



片手で持てる小型端末

端末は420gの筐体で、マイクロUSB端子による充電式。操作はタッチスクリーンモニターで行う。クレジットカードをスキャンするリーダーと差し込むリーダー、QRコードなどを読み込むカメラを搭載し、控えを出力するプリンターも付いている。また、レジで入力した金額を転送して決済処理するように、POSレジとBluetoothで接続することもできるなど、開発による拡張性も高い。リリース時はスワイプ型とICカード型のクレジットカード、銀聯カード、QRコード(楽天ペイ、ラインペイ、d払い、ペイペイ、アリペイ、ウェイチャットペイ)、共通ポイント(ポンタポイント、dポイント、楽天ポイント)に対応。6月から交通系電子マネーにも対応するなど、新たなサービスにも順次対応する。

端末はタイワハウスグループの㈱ロイヤルゲートが発売し、昨年12月にリリースした。光和コンピューターは書店向けに販売する。費用の目安は、端末の導入費用が7万円程度、月額利用料金が現在対応する決済手段を搭載して2500円程度、クレジット決済手数料は3%未満を予定しているが、既存の決済代行事業者との接続も可能。

キャッシュレス化は今秋に予定される消費税率アップや、来年の東京オリンピックで想定される海外からの訪問者増加などに伴って進むとみられており、政府も補助金などで導入を促進している。

新たな決済手段への対応の有無が、顧客の店舗選択に影響することも想定される一方で、多様な決済手段に対応するためコストや、複数の端末を設置することなどが課題になっている。

「PAYGATE Station」の主な仕様は、端末サイズが長さ184mm×幅84mm×高さ58mm、420g。OSはアンドロイド5.0。